

座間市市民協働課
 平成 26.4.28 受付
 第 号

相互提案型協働事業実施報告書

平成26年 4月28日

(宛先) 座間市長

団体 住 所 座間市四ツ谷 718-1

名 称 不登校・ひきこもり居場所あすなる

代表者氏名 庄村 邦子



市 担 当 課 青少年課
 課長 井上 和雄
 教育指導課
 課長 日極 忠
 生涯学習課
 課長 伊波 俊行



次のとおり報告します。

1 事業名	座間市不登校・ひきこもり支援活動と周知活動の推進
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成24年度選考（平成25年度実施）
4 報告期間	平成25年4月1日 から 平成26年3月31日 まで
5 事業費	1,067,523円（うち座間市支出分500,000円）
6 事業概要 （事業内容等を450字以内で御記入ください。） ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	25年度は関係団体との連携強化と専門家による相談の拡充、及び学習支援を3本柱として、活動を推進していく。この活動によってあすなるの活動の周知と地域とのネットワーク作りに繋がっていくものと考えられる。将来的には、不登校・ひきこもりの人達だけではなく、地域の幼児や高齢者の居場所として活用できるようにしていきたい。 主な事業 ① 座間市との共催でドキュメンタリー映画「さなぎ～学校に行きたくない～」上映会 ② あすなるっこ祭り ③ あすなる主催卓球大会（座間市適応指導教室つばさと交流） ④ 講師による学習支援 ⑤ 臨床心理士の専門的相談
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	座間市不登校・ひきこもり支援活動と周知活動の推進
-----	--------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	協働事業として掲げた事業は達成。	事業目的は計画通り達成できた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	<p>あすなる周知効果によって、来所の青少年は小学生・中学生・高校生・成人と年代層が広がった。また、あすなろっこ祭りや不登校をテーマにしたドキュメンタリー映画の開催で多くの市民の皆さんの参加があり周知効果が上がったと考えられる。</p> <p>9月8日のあすなろっこ祭りは200名 2月2日の「さなぎ～学校に行きたくない～」上映会は目標としていた150名以上の参加があり、反響があったと考えられる。</p>	<p>周知方法を広報・ホームページ・市内施設掲示及び配布・タウンニュース・自治会回覧・研修会等でのPRなどを利用して、参加者が目標数に達することができた。</p> <p>各会場の確保については、ほぼスムーズに確保できた。</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	25年度は上映会を計画したこともあり、担当課と綿密に検討を重ねることができた目的実施の共有ができた。	事業を共に実施したことにより、共通の認識を持つことができ、理解が深まった。

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	<p>あすなろっこ祭り・ドキュメント映画上映会実施について、その前後に情報交換、説明・検討を重ね、チラシ配布の方法等双方で何度も相談をしながら実施することができた。</p>	<p>進行管理については、その都度情報交換を行い、準備・進め方などを検討しながら実施できた。</p>
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	<p>常に担当課と相談、検討をして対等に意見交換ができた。</p>	<p>協力して事業を対等な立場で実施することができた。</p>
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	<p>組織の違いをお互いに理解しあい、意見を出し合うことで、信頼感が生まれ事業実施をすることができた。</p>	<p>それぞれの役割を認識し、意見を出し合い事業の実現に向け、協力して実施できた。</p>

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割) 通常活動の実施 食事作り・絵手紙教室・小物作り・卓球練習・パソコン等 相談業務・HP作成・あすなろ便りの発行・他の機関との交流 あすなろっこ祭りや上映会・うどん打ち会・餅つき会等イベントの実施 座間市民ふるさと祭りバザー部門参加</p>	<p>(市の役割) 広報などによる事業の周知、公共施設等ポスター&チラシ配布 受講者の募集受付や会場の確保 イベント事前準備、前日準備、当日準備、参加協力、必要な用具の貸し出し 会議の開催と出席、共催事業の企画・立案の協力や助言</p>

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	協働事業の役割は、適正だった。	適正であった。
実施結果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	9月の「あすなろっこ祭り」2月のドキュメンタリー映画の上映会は計画・準備・実施に至るまで、担当課の協力によって、円滑に行う事ができた。	役割分担を実施できた。 「あすなろっ子まつり」「上映会」について、目標とする参加者数を達成できた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	臨床心理士相談や上映会の問い合わせや申込み受付等を、担当課が受け持ってくれた事で、参加者人数の増加拡大が図れた。 また、あすなろの家への訪問や問い合わせが増えてきた。	協働事業を通して、関係機関・地域の他団体と交流を図ることができた。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどの様な形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	<p>（団体の考え）</p> <p>不登校・ひきこもりは家族の問題だけではなく社会の財政的問題や先の見えない不安感で増加している。不登校からひきこもりとなり、そのまま高齢化していく現状がありこの人達をどのように社会参加できるようにするか、社会問題として捉えていく必要がある。このような青少年の将来を考えると、一団体としての事業ではなく、公共性としての必要性があり、官民共に協力していく事がこれからの問題である。</p> <p>特に県央地区は不登校ひきこもりの当事者や保護者のための居場所がなく、あすなろとしては、広域的に連携していく必要がある。また、あすなろ継続のためには、公設民営化を目指していく事が課題である。</p>	<p>（市の考え）</p> <p>「あすなろ」を居場所として周知するとともに、関係機関や他団体と顔の見えるネットワークづくりを進め、情報交換や連携した支援につなげていく。</p> <p>今後も講演会や交流事業の開催について、協力して実施していく。</p> <p>公設民営化については、担当課と市民協働課を含めた中で団体と検討していく。</p>